

皆さま、おはようございます。

本日はお忙しい中、第 55 回同窓会総会にご出席くださいます、ありがとうございます。長く続いたコロナ禍の影響も落ち着き、今年はややくためらうことなく総会を開催することができました。様々な変化があったこの一年間の青谷会についてお話させていただきます。

はじめに、大変残念なことです。元学院長のシスター本多が 3 月 16 日に帰天されたことをご報告いたします。シスターは青谷会後援事業である「英語で聖書を読む会」をご指導くださいましたが、昨年 12 月にシスターと受講者の皆さまで話し合われ、18 年間続いた講座を、令和 4 年度末で閉講することを決められました。そのわずか 3 カ月後のご帰天でしたので、私たちも大変驚き寂しさでいっぱいになりました。シスターが入会式や総会後のパーティーなど、青谷会の行事をとっても楽しみに参加して下さったことを懐かしく思い出します。おだやかなほほえみでいつも私たちに寄り添い、見守ってくださいましたことをあらためて感謝申し上げます。

また、もうひとつの後援事業である「神戸西洋美術史講座」も 5 月 27 日が最終講義となりました。同窓生に限らず学外の方も一緒に、美術について深く学べる場を提供してくださいました。講師の仏文学科 6 回生 佐藤よりこ先生はじめ、長い間講座を運営してくださいました委員会の皆さまに心よりお礼申し上げます。

さて、この度大学には大きな変化が訪れました。閉学は時代の流れで致し方ないことと頭では理解していても、皆さま、母校で過ごした日々を思い出し、どうしようもない寂しさを感じられたのではないのでしょうか。そして、青谷会へは「同窓会は今後どうなるのですか？大学と一緒に終わるのですか？」というご質問もいただいております。2027 年の閉学後、ここ海星の敷地内のどこかに、青谷会の活動拠点を置くことができるかどうかにより、状況は大きく変わってくるでしょう。現時点では大学校舎の行方についてまだ何も決まっておられません。めどが立つのに 2 年かかるのではと伺っております。仮に 4 年後、活動拠点である同窓会室を残すことができたとしても、現在の活動内容を大幅に見直す必要があると予測されます。役員会では、皆さまが同窓会に何を望まれているのかを探りながら、将来についての検討を続けてまいります。

次に、皆さまにご承認いただきたいことを 2 つ申し上げます。

ひとつは、在学生への支援についてです。

青谷会には、同窓生が在学中に納めた同窓会終身会費をもととする本会計とは別に、皆さまからのご寄付で成り立っている海星青谷会基金があります。この基金の中から、毎年 4 年次生 2 名に 20 万円ずつの奨学金を給付しております。皆さまのご厚志により現在の基金残高は約 200 万円となっており、閉学まで 4 年分の奨学金給付予定額に達しております。そこで、奨学金を目的とする寄付募集を停止すると決定し、4 月 20 日に青谷会ウェブサイトでお知らせいたしました。これまでのご協力に深く感謝いたします。

しかし、その後、学長はじめ大学の先生方より、資金不足が原因で学生のさまざまな活動に制約が生じていることを伺いました。学生にとって勉強はもちろん大切ですが、この 4 年間にしか経験できない大学祭やクラブ活動に打ち込み、そこで学生同士のつながりを築くことには計り知れない価値があります。その経験があつてこそ、卒業後も学生時代を懐かしみ、同窓生として母校を愛する気持ちにつながると考えております。

そこで、役員会では、個人を対象とする奨学金に加え、あらたに対象を学生全員に広げて、行事や活動への支援を行うことを決定いたしました。期間は今年度から閉学までの 4 年間です。現在、寄付募集を停止中の海星青谷会基金につきましては、基金の主な目的を「学生生活充実支援」に切り替え、寄付募集を再開いたします。

先日、大学祭運営委員長の学生さんが同窓会室に挨拶に来られ、「4 学年揃っての大学祭は今年が最後なので、ぜひ成功させたいとみんなで頑張っていますが、まだまだ資金調達が厳しい状態です。なんとか同窓会の皆さんのお力を貸していただけませんか」と相談されました。そこで今日はお手元に基金への振込用紙、またアセ

ンブリホール入口と食堂には募金箱も置かせていただいております。皆さまの温かいお気持ちを学生につなぎたいと考えておりますので、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

そして、同時に本会計からも支援金を支出する計画です。急な案件でしたので支援額は未定ですが、将来にわたる青谷会運営費の試算を行い、その上でどの程度の支援ができるかを検討してまいります。

青谷会学生会員である在学生在が充実した生活を送り、海星で学んで良かったと胸を張って卒業できるように、同窓会として応援してまいりますのでご理解を賜りたくお願い申し上げます。

もうひとつご承認いただきたいことは、新しい試みについてです。

昨年の総会で、役員探しの難しさについてお話し、その対策の一つとして、役員の代わりとなる事務員の配置を検討していくと申し上げました。この一年、役員会で話し合いを重ね、まず来年度より名簿管理業務を事務員に委託することになりましたのでその経緯をご報告いたします。

現在、青谷会会員の名簿管理は通信役員が担当し、名簿ソフトへの入力作業を行っています。年間を通じて作業する通常の変更届の処理に加え、1年に一度、また2年に一度だけの作業もあります。しかし、役員は毎年交代するため、全ての作業に熟練する機会がなく、引継ぎもマニュアルに頼った不完全なものになりがちです。また、変更届が集中する春先は、月何度かの作業が必要ですが、通信役員が各自の仕事を短期間に何度も休んで登校することは難しく、迅速な入力処理ができない状態です。

そこで、これらの問題を解決するために、通信役員の代わりとして、少なくとも2年以上継続して名簿管理を担当して下さる同窓生2名を事務員として配置することにしました。配置のメリットは、作業に熟練することで正確かつ迅速な対応が可能になること、そして、毎年難航する役員探しの負担を少しでも軽減できることです。委託は、来年度より月1~2回、5時間程度の作業を予定しています。委託料につきましては、のちほど予算案の中で会計役員がご説明いたします。

閉学後の状況が予測できない今、このように支出を伴う新しい試みを進めることに不安を持たれる方もいらっしゃると思います。しかしながら、名簿管理は同窓会の根本となる重要な業務ですので、どのような状況下でも確実な管理が必要となります。その観点からこの試みにご賛同いただけますと幸いです。

毎月の定例役員会では、役員一同、一生懸命考え活発に意見を出し合っております。しかし、今お話したような前例のない検討では、私たち役員だけでは判断しかねることも多いです。今までの総会では、役員会から皆さまへ一方通行でお話しておりましたが、今日はアンケート用紙をお配りしております。この大切な時期に、同窓会について今一度お考えいただき、どのようなことでも結構ですので、ぜひ皆さまの生の声をお寄せいただけますようお願いいたします。

さて、今日は大勢の方にご出席いただいておりますが、皆さま正門からアセンブリホールまで特別な思いをもって校舎の中を歩かれたのではないのでしょうか。私が学生だった頃の制服や上靴はとっくの昔に無くなりましたが、マリアさまや、お花が飾られたピカピカの廊下は40年前と全く変わりはありません。これは、先生・学生・お掃除の方、大学にかかわるすべての方が、いつの時代も海星を大切に思い愛してこられた証だと思います。これから閉学までの間、大学祭や総会の折にできるだけ多くの同窓生が母校を訪れ、この良き伝統を実感して下さることを願っております。

長くなりましたが、お聞きいただきありがとうございました。

どうぞ 今後とも海星青谷会へ、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。